

■論文題目	地域に定着した女性の特徴・要因についての研究 —なぜ地方に定着したのか—		
■氏名（学籍番号）	川崎 帆乃佳（04102022304）		
■指導教員	吉野 英岐	■所属コース	地域社会・環境コース
■キーワード	盛岡市	定着	女性

1. 研究の背景と目的

近年、政府や地方自治体が UJI ターン推進などをはじめとして、地域に人々を呼び込む政策を行った結果、地方で働きたいという若者が増えつつある。だが、現状は地方から都市部へ若者が流出している傾向があり、地方にいる若者の数が少なくなっている。岩手県でも同じことが言え、特に 15～19 歳・20～24 歳の年代で転出超過が多い。そして、宮城県を除いた東北地方の 5 県において、男女別の移動人口数を見たとき、女性の方が男性よりも転出数が多く、転入者数は少ない。こうしたことから、男性よりも女性が地方に定着していない傾向が見られる。

一方で、私が過去に聞き取り調査を行った事例では、一度都心へ出た後に地方の地元に帰り、そのまま現在も定着している人たちがいる。彼らは居住地の選択が自由になっているにも関わらず、自分が生まれ育った地域に戻り定着している。

そこで本研究では、実際に地域に定着した女性の特徴とその要因を調査し、女性が地域に定着するメカニズムを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

二宮ら（2004）によると、中間山地域における中高年層で、地域活動に参加している人たちの定住願望率が高い。また、地域定着に関する既存研究として、谷本ら（2017）などのように、若者を対象としたものもある。これらの既存研究では定着要因として、「地元へ愛着がある」が挙げられているが、実際に愛着があることが定着につながったのかは不明である。また、若者を対象とした既存研究が多いが、男女別に分けられておらず、長年住み続けている人を対象とした研究でもない。

そのため、実際に地域に長く住み続けている人の特徴などを明らかにする必要がある。

3. 調査対象と方法

調査対象地は、盛岡市とした。盛岡市を選定した理由は、北東北 3 県の県庁所在都市の人口移動率を比較した際に、盛岡市の人口移動率が一番高く、人が多く移動している地域に住み続けている人を調査することは価値があるのではないかと考えたからである。そこで、盛岡市に定着している女性を対象に、対面でのインタビュー及び、メールでの調査を行った。調査では、「定着している人」の基準として、職業選択の時期を経て 10 年間以上盛岡市に住んでいる人とした。そうすることで、50 代～70 代の年齢層に調査を行った。そして、統一調査票に基づかない調査を行った人が 2 名、統一調査票に基づいた調査を行った人が 8 名と合計 10 名となった。そのうち、8 人が「一度岩手県・盛岡市を出た人」で、2 人が「ずっと盛岡市に残っている人」であった。まず、自由形式であった統一調査票に基づかない調査は、それぞれ 2022 年 4 月 22 日、2023 年 8 月 5 日に実施した。そして、その調査から質問を整理し、統一調査票を用いた調査は、2023 年 9 月 30 日から 2023 年 11 月 27 日にかけて行った。

4. 調査結果

本調査での結果について、以下の 4 つの要素に着目した。

(1) 「定着した要因」に関して、「不本意に戻ってきて、そのまま残ることになった」という人もいれば、反対に、「もともと盛岡が好きでずっといる」という人もおり、人それぞれであった。

(2) 「地域活動の内容」に関しては、多種多様であった。自治体ごとの活動だけでなく、自身の趣味・関心と結びついているような活動をしている人が多かった。

(3) 「地元に対する愛着」に関しては、ほとんどの人が「愛着がある」と答えた。愛着を感じる部分として、「趣味など自分の好きなものがあること」、「家族や友人などの人脈があること」、「コンパクトであること」といった回答が見られた。また、統一調査票に基づかない調査でも「地域に自分の好きなことがある」といった回答が見られた。

(4) 「地元に見出す価値」に関しては、「人との繋がりがあり、仲良くできること」、「コンパクトな街であること」といった、愛着を感じる部分と重なる回答が複数見られた。一方で、「ただ普通に当たり前に過ごしていることに価値を感じる」、「良いものを見る目があり、人々の文化度の高さを感じられること」という回答も見られ、地元に見出す価値は人それぞれだと感じた。

5. 考察

調査結果から、本調査での定着要因として、「人とのつながり」、「地域活動の参加」、「地域への愛着」を挙げる。これらは、既存文献で挙げられていた定着要素と重なる部分が多い。そのため、定着要因として有効な要素と考えることができる。

そして、今回の調査で分かった定着要素を地方定着の促進に結び付けていかなければならない。定着要素を3つ挙げ、女性が地方に定着するためには以下のような取り組みが必要だと考える。

①趣味・関心との結びつき

仕事の他に趣味や自分の関心をもとに活動している人が多かったことから、生活していて楽しい・充実していると思わせるような取り組みが必要と考える。また、いろんな人と出会え、定着要因の一つである「人とのつながり」という要素も生まれてくる。

②住みやすい環境

本調査で、地域に対して「コンパクトで住みやすい」というような回答が多く見られたことから、定着において住みやすさが重要になってくると考えた。そこで、その地域の良さを生かしつつも、周りの環境整備を行っていくことが必要だと考える。

③愛着

本調査から、愛着はもともと持っているものではなく、今までの出来事や自身の行動によって生み出されていることが読み取れた。そのため、その地域の良さを伝えたり、自身の行動と結びつけるような活動を促したりして、地元に対する愛着を育てる必要がある。加えて、愛着は、進学や就職で転出する前にある程度育てていくことも必要である。そして、①や②は③につなげることも可能である。①や②の要素をその地域が持っているのかで愛着形成につなげられるかが変わってくるのではないだろうか。

6. 今後の課題

今回は、盛岡市を対象地として調査し、上記のような要素を導き出したが、これは現時点での結論であり、社会が変化することで定着要因が変化する可能性がある。そのため、変化に応じて人々が定着するための要素について考えていかなければならない。また、本研究は、定着した人のみを対象者とし、既存文献で見られた定着要因が本当に定着につながったのかを確かめる研究となった。より明確な定着要因を導き出すためには、転出した人にも調査を行い、比較を行うことが求められる。

主な参考文献・HP

二宮一枝・難波峰子・北園明江・岡田ゆみ・小野ツルコ、2004「中山間地域における中高年の地域活動と定住願望・生きがいとの関係」『日本地域看護学会誌』7巻1号、日本地域看護学会：75-80

谷本圭志・山口博哉、2017「地域特性に基づいた地元定着政策の立案支援に関する一考察」『土木学会論文集中D3』73巻5号、土木学会：366-377